

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	柔道整復スポーツ学科		科目区分	専門分野	授業の方法	実習
科目名	柔道整復実践実技 I		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	1年生		学期及び曜時間	後期	教室名	第2校舎3階実技室
担当教員	林 了大	実務経験とその関連資格	接骨院の院長(柔道整復師)として、1999年～2014年勤務経験あり。 公益法人兵庫県柔道整復師会 阪神南支部の役員を2008年～2014年まで務めた。			
《授業科目における学習内容》						
毎回、前回の復習を徹底して行う。実技試験前に認定実技審査形式で練習を行う。						
《成績評価の方法と基準》						
1. 定期試験:100% 2. レポート:0% 3. グループワーク中の態度・発表:0% 4. 授業態度と参加度:0%						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
柔道整復学・理論編第7版および柔道整復学・実技編第2版(南江堂)						
《授業外における学習方法》						
柔道整復理論 整復法 各項目 包帯法 各項目						
《履修に当たっての留意点》						
3年生時の認定実技審査で、学生が実力を発揮できるように、1年生から認定実技審査の形式に慣れてもらう。次年度の11月に行われる認定実技合格に向けての第一段階となる。積極的に練習して欲しい。						
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	鎖骨骨折の整復法を行える	柔道整復学・実技編 改訂第2版(南江堂)	柔道整復理論	
		各コマにおける授業予定	認定実技審査の説明、鎖骨骨折 整復法			
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	顎関節脱臼の整復法を行える	柔道整復学・実技編 改訂第2版(南江堂)	柔道整復理論	
		各コマにおける授業予定	顎関節前方脱臼 整復法			
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	肩鎖関節上方脱臼の整復法を行える	柔道整復学・実技編 改訂第2版(南江堂)	柔道整復理論	
		各コマにおける授業予定	肩鎖骨関節上方脱臼 整復法			
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	肩関節脱臼の整復法を行える	柔道整復学・実技編 改訂第2版(南江堂)	柔道整復理論	
		各コマにおける授業予定	肩関節前方脱臼 整復法			
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	肘関節脱臼の整復法を行える	柔道整復学・実技編 改訂第2版(南江堂)	柔道整復理論	
		各コマにおける授業予定	肘関節後方脱臼 整復法			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	肘内障の整復法を行える	柔道整復学・実技編 改訂第2版 (南江堂)	柔道整復理論
		各コマにおける授業予定	肘内障 整復法		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	肘関節脱臼の固定法を行える	柔道整復学・実技編 改訂第2版 (南江堂)	柔道整復理論
		各コマにおける授業予定	肘関節後方脱臼 固定法		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	肩関節脱臼の固定法を行える	柔道整復学・実技編 改訂第2版 (南江堂)	柔道整復理論
		各コマにおける授業予定	肩関節前方脱臼 固定法		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	鎖骨骨折の固定法を行える	柔道整復学・実技編 改訂第2版 (南江堂)	柔道整復理論
		各コマにおける授業予定	鎖骨骨折 固定法		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	下腿骨骨折の固定法を行える	柔道整復学・実技編 改訂第2版 (南江堂)	柔道整復理論
		各コマにおける授業予定	下腿骨骨幹部骨折 固定法		
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標	アキレス腱損傷の固定法を行える	柔道整復学・実技編 改訂第2版 (南江堂)	柔道整復理論
		各コマにおける授業予定	アキレス腱断裂 固定法		
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標	コーレス骨折の固定法を行える	柔道整復学・実技編 改訂第2版 (南江堂)	柔道整復理論
		各コマにおける授業予定	コーレス骨折 固定法		
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標	講義で習得した各項目ができるように復習する	柔道整復学・実技編 改訂第2版 (南江堂)	柔道整復理論
		各コマにおける授業予定	実技試験形式での復習		
第14回	実習形式	授業を通じての到達目標	講義で習得した各項目が、認定実技審査合格の水準に達する(1)	柔道整復学・実技編 改訂第2版 (南江堂)	柔道整復理論
		各コマにおける授業予定	後期で習得した各項目の学生理解度の確認をする(前半)		
第15回	実習形式	授業を通じての到達目標	講義で習得した各項目が、認定実技審査合格の水準に達する(2)	柔道整復学・実技編 改訂第2版 (南江堂)	柔道整復理論
		各コマにおける授業予定	後期で習得した各項目の学生理解度の確認をする(後半)		